

## あなたは知ってる？水の大切さを

「ピチヨ、ピチヨ。」  
私は学校でよくこのように開いたままの蛇口を目にする。今まではあまり気にしていなかったが、最近物価が高くなっていることや光熱費が二倍近く上がったことを母から聞き、少しでも節約しなくてはいけないと思うようになった。そこで気づいたのは私たちの日常生活には、沢山の「無駄遣い」があるということだ。  
そもそも、あなたはもし水がなかったらと考えたことはあるだろうか。多少水を飲まなくたって、平気だろうと考える人がいるかもしれない。だが、実際は体から水分が一割へるだけで死ぬ可能性があるのだ。それほど生命にとって水は必要不可欠なのだ。水がなくなれば森林は枯渇し動物は死に、つまりは地球が死ぬことになるだろう。あるいはこう考

奈良市立富雄第三中学校 二年  
森田 愛衣  
える人もいるかもしれない。そもそも水がなくなるはずがないと。確かに地球の七割は海であり水は沢山あるように思えるが、実際に口に飲料水として利用できる水はまだ限られている。日本にいる私達は蛇口をひねったら水がでてくるのが当たり前だと思っている。だが、蛇口をひねってもでてこないという国が沢山ある。水を得るために自分の生活を犠牲にしている人が沢山いる。世界では二〇一五年時点で六億六千三百万人も人が安心して水を飲める環境にないと言われている。彼らは池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいる。その仕事の多くは子どもたちが担っており、学校に行かず毎日重い水を運ぶために長い道のりを歩いているのだ。私はこう聞きとて驚いた。私が蛇口をひねるのにどれくらい時間がかかるだろうか。

せいぜい三秒ぐらいだろう。蛇口を回し、使  
い終わったら戻すのにどれだけの労力がかか  
るだろうか。私たちは、そんな少しの動作も  
面倒くさがる。開いたままの蛇口を滴る水を  
毎日水を遠くまで運びに行かなければならな  
い子どもたちが見たら、彼らはなんと言うだ  
ろうか。

今起こっているウクライナ戦争では水道網  
と電気網の両方が破壊されたことで同国東部  
に住む一四〇万人が水道水を利用できない状  
況になっていった。このように戦争や災害によ  
って水を「飲みたい」と思っても飲めない状  
況にある日突然置かれている人が世界には沢  
山いる。死んでしまう子供が沢山いる。また  
水はあるものの汚染されていたり、衛生的で  
ないものを口にするしかなく、病気になって  
しまう人も大勢いる。

ならば、ただ恵まれた国に生まれ私たちが  
ラッキーで彼らは不運だったというだけで終  
わってしまったていいのだろうか。かわいそう  
とまるで関係ないように放っておいていいの  
か。私は違うと思う。恵まれた環境にいるか  
らこそ、自分たちのことだけでなく他の人

や将来のことをもっと真剣に考えるべきでは  
ないだろうか。持続可能な開発目標SDGs  
の目標の一つに「安全な水とトイレを世界中  
に」といったものがある。

大人だけしかこの取り組みができないので  
はない。毎日の日常生活を気を付ける事で少  
しでも改善されるのではないだろうか。例え  
ば水を使い終わったら確認するなど個人で意  
識できると思う。私の家では水をこまめに  
出したり、出しすぎないように気をつけている。  
この一瞬でも水が欲しいと思っっている人は沢  
山いることを忘れてはいけない。